

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

百年の伝統と実績の上に立ち、グローバル社会において真のリーダーとして世界に貢献できる人物を育成する学校。

- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
- ◎ 日々の授業、行事、国際交流を通して、「自主・自律」を体現する生徒を育てる。
- ◎ 地域に信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

## 2 中期的目標

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい力を定め、その実現へ向けた取組みを行う。

## 【5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と人権感覚
- 3 理念を行動に移せる実行力と他者と共に取り組む協働力
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 柔軟な発想と探究心により課題を発見し解決する力

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成
  - ア 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。
  - イ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。

※ 国公立大学合格者 100名以上 (R3 67名、R4 76名、R5 60名)

## 2 国際・科学高校としての質的な深化

- (1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展
  - ア 両学科が共に取り組む課題研究を深化させる。
  - イ ルーブリック評価によって生徒の思考力、表現力等を向上させる。
- (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成
  - ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上させる。
  - イ 対面とオンラインを有効に活用し、国内外の高校生と交流を深める。

## (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実

- ア ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④卒業生による「住高支援ネットワーク」を充実させる。
- イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。

※ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R3 93%、R4 93%、R5 94%)

## 3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

- (1) 人権を尊重する意識の向上
  - ア 人権HRをさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。
- (2) 生徒の自主的な活動の充実
  - ア 自治会活動、部活動をさらに充実させる。
- (3) マナー・規範意識等の育成
  - ア 挨拶・清掃・遅刻指導を通して、生徒が自らマナーや規範について考える機会を与える。

※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R3 95%、R4 96%、R5 95%)

※ 学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90%以上を維持する。(R3 95%、R4 96%、R5 97%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	<p>(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成</p> <p>ア 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進</p> <p>イ 3年間を見通した進路指導</p>	<p>ア・STEP UP LABO（授業力向上チーム）が中心となって公開授業を通じた授業力向上に取り組む。</p> <p>・ICT推進委員会が中心となって1人1台端末の体制を整備し、タブレット端末を活用した公開授業を実施する。</p> <p>・働き方改革の取組みとして、部活動指導に関する方針を遵守し、業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。</p> <p>イ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。</p> <p>・進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。</p> <p>・模擬試験後、進路指導部と学年団が連携して分析会を実施し、模試の有効活用を促進する。</p>	<p>ア・公開授業週間を年に2回以上設定し、個々の授業改善に努める。[2回]</p> <p>・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」3.3以上を維持する。[3.4、3.5]</p> <p>・学校教育自己診断（教員）「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている」を80%に[74%]</p> <p>・学校教育自己診断「1人1台端末を効果的に活用している」80%に[75%]</p> <p>・時間外勤務時間（一人当たり平均）を5%減少させる。[288時間で1%増（4月～2月）]</p> <p>・年間時間外勤務時間720時間を超える教員を5名以内にする。</p> <p>イ・系統的な進路HRを5回以上実施する。[8回]</p> <p>・進学講習を3年生は20講座以上[24講座]、2、1年生は15講座以上[20講座]実施する。</p> <p>・模擬試験後の分析会を5回以上実施する。[5回]</p>	
2 国際・科学高校としての質的な深化	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化</p> <p>ア 課題研究の内容の深化</p> <p>イ ループリック評価の普及</p> <p>(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成</p> <p>ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上</p> <p>(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実</p> <p>ア 課題研究の質的向上、国際共同研究、「住高支援ネットワーク」の充実</p> <p>イ 平和学習、人権学習の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・R6年度からの教育課程改定により、両学科が同時に「総合的な探究の時間」の活動をすすめる。</p> <p>・探究サイクルを一般教科等に取り入れ、課題解決型の授業を実施する。</p> <p>イ・SSHの課題研究で用いているループリック評価を普及させるとともに、評価についての研究を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・暗誦、ディベート等の指導やSE（スーパーイングリッシュ）、SK（スーパーコリアン）等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・海外の高校との国際共同研究やオンライン交流を広げる。</p> <p>・「住高支援ネットワーク」の人数を増やし、課題研究の助言の活用を進める。</p> <p>イ・SDGsをテーマとした「総合的な探究の時間」、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・国際文化科1・2年生の「総合的な探究の時間」で課題研究を実施し、その発表会を年間各学年1回以上実施する。[2回]</p> <p>・探究サイクルを取り入れた教科の公開授業または事例報告を年間2回以上実施する。[2回]</p> <p>イ 学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」90%以上を維持する。[95%]</p> <p>学校教育自己診断（教員）「評価の在り方について、話し合う機会がある」を90%に。[80%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・1年生70人以上、2年生で100人以上がCEFR B1以上となるようにする。[1年生90人、2年生70人]</p> <p>(3)</p> <p>ア・国際共同研究を実施し、年間1回成果発表会を実施する。[1回]</p> <p>・「住高支援ネットワーク」の活用を年3回以上[3回]</p> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[94%]</p>	

<p>3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上 ア 人権 HR のさらなる充実ときめ細かな相談支援体制の確立</p> <p>(2) 生徒の自主的な活動の充実 ア 自治会活動、部活動のさらなる充実</p> <p>(3) マナー・規範意識等の育成 ア 挨拶・清掃・遅刻指導</p>	<p>(1) ア・人権教育推進委員会を中心として、人権 HR 及び教職員研修の一層の充実を図る。 ・支援委員会、帰国渡日生を支援する GL(グローバル ライフ)委員会、教育相談会を中心に生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。</p> <p>(2) ア・自治会部を中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。</p> <p>(3) ア・生活指導部を中心に学年団と連携し、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等を通して、生徒が自らマナーや規範について考える機会をあたえる。 ・保健部を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の取組みを強化する。また、定期的な換気や消毒により、校内の感染防止対策を行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[95%] ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」80%以上にする。[78%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90%以上を維持する。[97%]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」85%以上を維持する。[89%] ・学校教育自己診断「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる」85%以上に[82%]</p>	
---	--	--	---	--